

6月
June

はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和7(2025)年5月31日発行 学校HP

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子



居場所づくり・つながりづくり・やりがいづくり

～6月は「いじめ対策強化月間」～

本校では、いじめのない、今日も来てよかったといえる学校にするため、「居場所づくり・つながりづくり・やりがいづくり」を大切にしています。6月は、いじめの未然防止及びいじめを許さない学校づくりを目指し、いじめの早期発見・早期対応とともに、児童のよりよい人間関係づくりに努める取り組みを展開します。未然防止の取り組みとして、全校集会での校長講話、道徳の授業、児童会の取り組み。早期発見の取り組みとして、「いじめのない、明るく楽しい学校をめざして」のアンケート実施後、担任が児童一人一人と個別面談を行います。面談では、昨年度に認知した内容でいまだ解消に至っていない事象についても追跡調査を行います。いじめのきっかけの一つが、児童の間でよくみられる些細なトラブルです。成長途上にある子どもたちが集団生活を送る学校では、人間関係のトラブルはつきものです。遊びの中で、「そんなつもりはなかった」というちょっとした軽口で友達を傷つけてしまったという事象は起こりがちです。「いじめはどの子どもにも起こりうる、どの子どもも被害者にも加害者にもなりうる」ということを常に念頭に置き、児童をいじめに向かわせないために、「いじめは人間として絶対に許されない」ことをしっかり認識させる指導を発達段階に応じて徹底していくことと他人の痛みを自分事として考えられたり、多様性を認められたりする優しい心を育てていきます。



様々な個性を持つ子どもたちが集団生活をする学校では、いろいろなトラブルが起こりますが、そんな日々の生活を通して、自己理解や他者理解が深まったり、社会性が育っていったりします。これからもかかわり合いを大切にする中で、「居場所づくり」「つながりづくり」「やりがいづくり」を充実させていきます。今後ご家庭や地域でお気付きになることがありましたら、すぐにお知らせいただくとともに、学校と連携してご支援いただきますようお願いいたします。

「レジリエンス」を育む

教職員の研修の場である京都府総合教育センターが発行したリーフレットに載せられていた内容です。『レジリエンス』というあまりなじみのない言葉ですが、意味は「自発的治癒力を意味し、一般的に「精神的回復力」「耐久力」などと定義される」そうです。つまり、苦しいことやつらいことがあった時に、自分自身で心を強く持ち、目の前の状況にしなやかに柔軟に適應していく力のことです。大学生を対象に調査を行い、この力を育むためには、果たして教職員のどんなかかわりが重要なかが明らかになったという内容でした。その重要なかかわりというのが2つあり、「親身になって話を聴く」ことと「丁寧にかかわる」ことだそうです。結論をリーフレットから引用します。



大学生の意識調査から、教職員の“親身なかかわり”が子どもたちのレジリエンス（特に「自己への信頼」）の醸成につながるということがわかりました。「親身になる」とは、“親”のように、そして“身（身体）”をもってすべての感覚を総動員してかかわり合うこととも言えるのではないのでしょうか。その親身なかかわりにより、子どもは尊重されていると感じ、自分を肯定的に捉え、また他者を信頼することにもつながっていくと考えられます。

ICT化が進み、物理的に時と場を共有しなくてもつながることができるようになりましたが、折れない、しなやかな心を育むためには、ICTでは補えないかかわりがまさに「鍵」となると考えられます。決して特別なかかわりではなく、「親身に話を聴く」など、きわめて日常的で、温かみのあるかかわりの積み重ねが大切だと言えます。

この内容を教職員でしっかり共有し、子どもたちの将来にかかわる大切な力を育むため、「当たり前」の「当たり前」に、そして確実に実行していきたいと思っております。6月どうぞよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同